

## JR西の山崎社長起訴

## ATS設置怠る

## 尼崎脱線事故で神戸地検

百七人が死亡した二〇〇五年四月の尼崎JR脱線事故で、神戸地検は八日、業務上過失致死傷罪でJR西日本の山崎正夫社長(六六)を在宅起訴した。山崎社長は、現場が急カーブに付け替えられた一九九六年、常務取締役鉄道本部長で安全対策の最高責任者だった。地検は、自動列車停止装置(ATS)があれば事故を防げたのに、設置を怠ったと判断した。

一方、同容疑で書類送検された高見隆二郎運転士(三三)を被疑者死亡で、安全対策や運行管理の元担当幹部八人と、遺族から告訴されていた井手正敬氏(七四)ら旧経営陣三人はいずれも嫌疑不十分で不起訴にした。

四年余りに及んだ捜査は、現職社長の立件という、鉄道事故としては極めて異例の結論に至った。山崎社長の進退問題に発展するのは必至だ。

地検によると、山崎社長はこれまでの事情聴取に「事故は予測できなかった」と話している。



山崎正夫 JR西日本社長